

アイタック
インター

ASEANで事業体制拡充

アイタックインターナショナル(香港)は、「チャイナ11」の方針の下、ASEANでの事業体制拡充を積極的に進めている。18年にベトナムとタイに自社工場を立ち上げ、基板実装や自社ブランド品ビジネスで実績を拡大しているのは、

ローバルネットワークを活用した顧客のグローバル展開に対するサポート体制の充実により、顧客の利便性向上に努めている。

同社は、付加価値を強化することで、非日系企業の開拓にもつなげていきたい(後藤俊夫社長)。

タイ工場も18年から生産を開始している。一方、エレクトロニクス各社のASEAN生産シフトが進む中、ASEAN全体に広げていく方針。

基板実装や自社ブランド品伸ばす

顧客を支援

国際調達代行機能や品質管理体制を強化

同社は、建材や産業用資材などを取り扱う専門商社、高島の電子デバイス・電子機器事業を担当する企業。グ

チミン)およびタイ工場の本格的な操業を開始(バンコク近郊)をした。同工場では各種モノクロ液晶の後工程を皮切りに、順次、生産体制を拡充している。20年からはPIN

「タイ工場の基板実装では、部品調達力を活用したコスト競争力が強み(後藤社長)。

マレーシアでは、「チャイナ11」の一環として、17年にそれまでの駐在員事務所体制から現法化を図った(ペナン本社、KL支店)。ペナンには24時間

「チャイナ11」の一環として、17年にそれまでの駐在員事務所体制から現法化を図った(ペナン本社、KL支店)。ペナンには24時間



タイ工場の生産ライン



ベトナム工場の外観

近の業界では、日系企業に限らず、ASEANへの生産移管の動きが加速しており、中でも勢いのあるベトナムとタイに自社工場を開

現地完結型のJITで、顧客に海外部品を安心して使用してもらうための体制づくりを心がけている。